

目次	会務報告	347
	第29回青空地衣教室（神奈川県箱根町箱根樹木園）の報告 / 木下 靖浩・小山内 行雄・安斉 唯夫	347
	第29回青空地衣教室（神奈川県箱根町箱根樹木園，2009年6月7日）で観察された地衣類 / 原田 浩・木下 靖浩・小山内 行雄・安斉 唯夫	348
	箱根樹木園で開催された第29回青空地衣教室に参加して / 坂田 歩美	349

会務報告 Reports of the JSL Activities

第29回青空地衣教室（神奈川県箱根町箱根樹木園）の報告 / 木下 靖浩・小山内 行雄・安斉 唯夫（地域活性委員会）

Report of the 29th Outdoor School on Lichens at Hakone Arboretum (Hakone Jumoku-en), Hakone, Kanagawa-ken, central Japan (7 June 2009)/ by Kinoshita Y., Osanai Y. & Anzai T.

神奈川県箱根町において第29回青空地衣教室が開催されましたので、報告いたします。

* * *

開催日：2009年6月7日（日）

開催場所：神奈川県箱根町元箱根 箱根樹木園

講師：原田浩氏（千葉県立中央博物館）

参加者数：21人（講師を含む）

* * *

青空地衣教室は過去に何度か箱根で開催しており、今回の開催は2年ぶりになります。交通の便がよい地でもあり、講師を含め20名を超える大人数での観察会となりました。

集合時間は10時でしたが、1時間以上も前から到着した参加者もおいでで、30分前には参加予定者のほとんどが集合場所のロープウェイ乗り場の階段下付近に顔を出しておりました。定刻に階段下で挨拶をした後、観察会場の箱根樹木園まで脇目もふらずに徒歩で移動し、25分ほどで全員が到着しました。参加者のお一人が割

引券を用意されていたので、通常の入園料500円のところを450円で入園することができたのは幸運でした。

箱根樹木園は芦ノ湖の東の湖畔に位置し、標高は約750m、落葉広葉樹の森に囲まれた草地の中にバンガローが点在し、その付近はカエデ類などの落葉広葉樹が適度な間隔で配されています。地衣には良い環境であるらしく、あまり移動しなくても地衣類の多くの種類を観察することができるので、観察会会場としてお勧めの場所です。

今回の青空地衣教室は、地衣類について初心者の方が多かったことから、原田講師の説明はまずは大きな岩の表面に生えたヤマトキゴケ、ヒメレンゲゴケを材料に樹状地衣の説明から始まりました（図1A）。直ぐ横の地上に生育していたコフキツメゴケ、バンガローの板壁に生育していたコナイボゴケ、岩表面のヘリトリゴケなど対比し、地衣類の形態の大まかな違いが説明されました。

次いで、カエデの木立に移動しました（図1B）。樹

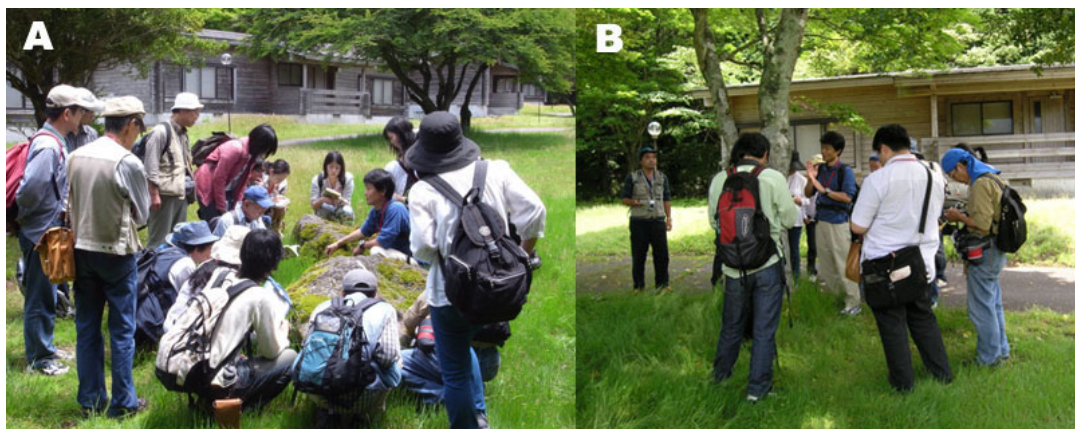


図1. 観察会の様子. A, まずは岩の上から観察. B, カエデの幹にはウメノキゴケ科が多かった.

幹には葉状地衣の種類も多く、マツゲゴケ、ウチキウメノキゴケ、テリハゴケなどのウメノキゴケ科、チヂレウラジロゲジゲゴケやコナアカハラムカデゴケなどのムカデゴケ科、また、様々な痾状地衣も観察することができました。その地点で昼食、更に午後も同じ地点で観察を継続しました。我々世話人が予定していたコースのほんの一部しか見ないうちに、予定されていた残り時間わずかになったので、講師をせかし、どうしても皆さんに見ていただきたかったカラタチゴケとサルオガセの

地点に移動しました。そこでは、これらの貴重な樹状地衣に加え、皮層の有無を色の違いとして見分けられるカワホリゴケ属とアオキノリ属(いずれもイワノリ科)を見比べることもできましたし、裂芽をつけるゴンゲンゴケ属もたくさん見つけることができました。

講師からは最後にウラムゴケを紹介され、予定の3時近くにその場で解散しました。好天に恵まれたのは何よりでした。

第29回青空地衣教室（神奈川県箱根町箱根樹木園，2009年6月7日）で観察された地衣類

原田 浩*・木下 靖浩**・小山内 行雄**・安齊 唯夫** (*千葉県立中央博物館・**地域活性委員会)
Lichens observed during the 29th Outdoor School on Lichens at Hakone Arboretum (Hakone Jumoku-en), Hakone, Kanagawa-ken, central Japan (7 June 2009) / by Harada H., Kinoshita Y., Osanai Y. & Anzai T.

神奈川県箱根町元箱根 箱根樹木園 (2009年6月7日)

観察リスト

<i>Caloplaca flavovirescens</i>	ツブダイダイゴケ
<i>Candelaria concolor</i>	ロウソクゴケ
<i>Canoparmelia aptata</i> or <i>C. texana</i>	シラチャウメノキゴケ あるいは タナカウメノキゴケ
<i>Cetrelia braunsiana</i>	トゲトコブシゴケ
<i>Cladonia ramulosa</i>	ヒメレンゲゴケ
<i>Collema complanatum</i>	カワホリゴケ
<i>C. subflaccidum</i>	トゲカワホリゴケ
<i>Flavoparmelia caperata</i>	キウメノキゴケ
<i>Graphis</i> sp.	モジゴケ属の一種
<i>Heterodermia japonica</i>	クロアシゲジゲジゴケ

<i>H. microphylla</i>	チヂレウラジロゲジゲジゴケ
<i>Hypotrachyna koyaensis</i> or <i>H. nodakensis</i>	コウヤウメノキゴケ あるいは ノダケウメノキゴケ
<i>H. osseoalba</i>	ゴンゲンゴケ
<i>Lecanora nipponica</i>	チャシブゴケ属の一種
<i>L. pulverulenta</i>	コナイボゴケ
<i>Leiorreuma exaltatum</i>	ヘリトリモジゴケ
<i>Lepraria atrotomentosa</i>	レブラゴケ
<i>Leptogium azureum</i>	アオキノリ
<i>L. moluccanum</i> var. <i>myriophyllum</i>	コバノアオキノリ
<i>Menegazzia terebrata</i>	センシゴケ
<i>Myelochroa aurulenta</i>	コナウチキウメノキゴケ
<i>M. entotheiochroa</i>	クズレウチキウメノキゴケ

<i>M. irrugans</i>	ウチキウメノキゴケ	<i>P. rubropulchra</i>	コナアカハラムカデゴケ
<i>M. metarevoluta</i>	コフキチョロギウメノキゴケ	<i>Physciella melanchra</i>	ムカデコゴケ
<i>Nephroma helveticum</i>	ウラムゴケモドキ	<i>Porpidia albocaerulescens</i> var. <i>albocaerulescens</i>	ヘリトリゴケ
<i>Ochrolechia trochophora</i>	クサビラゴケ	<i>Pyrenula japonica</i>	サネゴケ
<i>Parmelia fertilis</i>	トゲナシカラクサゴケ	<i>Pyxine sorediata</i>	コナクロボシゴケ
<i>P. laevior</i>	テリハゴケ	<i>Ramalina conduplicans</i>	カラタチゴケ
<i>Parmelinopsis minarum</i>	トゲウメノキゴケ	<i>Rimelia clavulifera</i>	マツゲゴケ
<i>Parmotrema mellissii</i>	ニセマツゲゴケ	<i>Stereocaulon japonicum</i>	ヤマトキゴケ
<i>Peltigera pruinosa</i>	コフキツメゴケ	<i>Tephromela atra</i>	クロイボゴケ
<i>Pertusaria multipuncta</i> ?	オオカノコゴケ ? (トリハダゴケ属)	<i>Usnea pangiana</i>	ホンドサルオガセ
<i>Phaeophyscia limbata</i>	クロウラムカデゴケ		

箱根樹木園で開催された第29回青空地衣教室に参加して / 坂田 歩美 (千葉県立中央博物館市民研究員)

My report of the 29th Outdoor School on Lichens at Hakone Arboretum / by Sakata A.

地衣学会地域活性化委員会主催の青空地衣教室に参加しました。場所は標高800m程度の暖温帯から冷温帯の中間地点に位置する箱根園内の樹木園さんでした。園内は木々が覆い茂り、夏場は宿泊も出来るコテージや芝生広がる広場などがある緑豊かな公園です。あいにく天気はくもりでしたが、涼しく、日差しも弱く観察会にはぴったりの陽気でした。

今回の観察会は初参加の方も多く、原田先生の地衣類についての簡単な説明から始まりました。私は今回の観察会で3回目の参加になります。最初に観察したのは、大きな岩に生えていた樹状地衣のヤマトキゴケです。ヤマトキゴケは偽子柄表面の青味がかった灰色の棘枝や紫の頭状体がきれいな地衣類で、低地でも良く見られるそうです。ヤマトキゴケは博物館主催の観察会で観察したばかりだったので、簡単に見分けることが出来ました。次に、樹状地衣の代表選手ハナゴケの仲間が同じ岩上に生えていたので、キゴケとハナゴケの違いについて説明を受けました。子柄が中空なのがハナゴケ、偽子柄が密に詰まっているのがキゴケとのことです。その後、ヤマトキゴケを観察した岩周辺では痲状地衣のアナイボゴケの仲間、コナイボゴケ、ヘリトリゴケ、葉状地衣のコフキツメゴケなどを観察しました。一通り全ての生育形を観察した所で、場所を移動して、次に、木につく地衣類を観察しました。最初に、葉状のウメノキゴケの仲間、

ムカデゴケ、ゲジゲジゴケを観察しました。ウメノキゴケ科は観察会に参加する度に、数種類教えて頂きますが、その場では見分けられても、次の観察会では分からなくなってしまいます。今回の観察会でも以前の観察会で教えて頂いた種類がいくつかありましたが、結局、見分けることが出来ませんでした。私もウメノキゴケ科を原田先生のようにピシッと見分けられるようになりたいです。木につく痲状地衣はチャシブゴケの仲間、クサビラゴケ、オオカノコゴケ、トリハダゴケ、モジゴケ、サネゴケ、クロイボゴケ、レブラゴケと岩につく地衣よりも種類が豊富で、全体的に色鮮やかできれいでした。コンクリートに生えていたクロウラムカデゴケを観察するために原田先生が座り込んだ所で、ちょうどいい時間となったのでそのままお昼を取りました。午後は午前を観察していた木を継続して観察した後、イワノリ科のカワホリゴケ、トゲカワホリゴケ、アオキノリを観察しました。この仲間は珍しいものらしく、みなさん特に熱心に観察したり、写真を撮っていました。

次に、場所を移動して、カラタチゴケ、サルオガセ等を観察しました。その後、出口に戻る途中で、今回の観察会で一番印象に残る地衣類を観察しました。ツメゴケ科のウラムゴケモドキです(図1)。この名前を聞いた時、恐ろしい名前に驚愕しました。原田先生から「怨念のウラムではなく、裂片の裏側に子器がつくのでウラム



図1. その名も恐ろしげな ウラミゴケモドキ (*Nephroma helveticum*). でも本当は、「恨み」ではなくて、「裏実」なんですね. 撮影：小山内行雄.

ゴケです」との説明を聞いて、すぐにこの地衣にも親しみを持つことが出来ました。それでも、子器が裏に付くなんて変わった地衣類だと思いました。

今日の観察会では都市部など低地で見られる地衣類から冷温帯に分布する地衣類までバラエティー豊かな地衣類を観察することが出来ました。今回、箱根での観察会だったので、ウメノキゴケ科のハコネゴンゲンゴケを観察したいと思っていましたが、あいにく観察するこ

とは出来ませんでした。期待していた地衣類は観察出来ませんが、楽しみながら地衣類の形態や種類を覚えられ、大変充実した時間を過ごすことが出来ました。

今回も観察会のために綿密な計画を立ててくれた世話人の安斉さん、木下さん、小山内さん、いつも丁寧な説明で地衣類の知識を授けてくれる原田先生、心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

●複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌 80号 290ページに。

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 80, p. 290 of this publication.

●*Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 95, pp. 347-350: eds. Harada H. & Kinoshita K., published by *the Japanese Society for Lichenology*,

30 June 2009.

日本地衣学会ニュースレター 95号

発行日：2009年 6月 30日

編集：原田 浩・木下 薫

発行者・発行所：日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内

©2009 日本地衣学会 (© 2009 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複写等は固くお断りいたします。